

茨木市立 耳原小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

平成30年10月作成

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼 小中連携	区内で統一する。 実践的教育活動を校	①同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。②つながり力の育成に向けて、それぞれ(各校園所、各学年)が授業で何を大事にするべきかを明確に持つ。	①連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ②各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取り組み、それぞれの実践を各校が交流・取り入れる。	①連携カリキュラムに必要な項目について検討し、追加作成を行う。 ②校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	全国学力テストA問題で全国平均並みにする。	①国語の基礎学力向上(読みの力向上)音読の重視→100点読みへの挑戦→暗唱での成功体験のステップで自信アップにつなげ「できる」を実感させる。 ②算数の基礎学力向上(計算の各学年重点指導事項の習得)・5づくり・10づくり・繰り上がり・繰り下がり・わり算C型100問練習・割り算の筆算の習熟・高学年は4年生までの重点指導事項の習熟とスピード化をはかる。また、面積(シェーマ)図の指導も行い、文章問題において機械的にでも立式ができるように指導。 ③学習能力の向上(聴く力の向上)人の話を聴く力の向上。話す人(教師、発表者)の目を見て聴く態度の育成。	①国語の基礎学力向上(読み書きの力向上)・漢字そっくりさん指導・視写指導・音読(暗唱)・指導・読書指導・辞書引き活動・字形指導の徹底(とめ、はね、はらい・見て書く技術の向上(ビジョントレーニング)等の指導 ②算数の基礎力の向上(計算)・計算カードの長期的活用・フラッシュカードの活用・フラッシュ暗算・くり下がり引き算の徹底反復・マス計算・わり算C型100問練習・面積図指導 ③学習能力(学ぶ力)の向上 テストの受け方指導、テスト勉強の仕方指導・反応速度を高める指導・上達力を身につける指導・よく見てよく聴き よく学ぶ(まねぶ)子どもの育成・(家庭学習)の仕方指導	①国語の基礎学力向上(読み書きの力向上)・漢字学年全字読み書き習得指導・視写指導・聴写指導・暗唱指導・読書指導・辞書引き活動・ビジョントレーニングの指導 ②算数の基礎力の向上(計算)・計算カードの長期的活用・ばら九九1秒練習・フラッシュ暗算・くり下がり引き算の徹底反復・マス計算・わり算C型100問練習(10分以内)・面積図で1あたり、いくつつ、全部を含む量感指導。 ③学習能力(聴く力・学ぶ力)の向上 テストの受け方指導、テスト勉強の仕方指導・反応速度を高める指導・上達力を身につける指導・よく見てよく聴き よく学ぶ(まねぶ)子どもの育成・(家庭学習)の仕方指導
豊かな人間性を育む	つながりを大切に。 何事にも一生懸命取り組み	・学校全体であいさつ運動に取り組む。最高学年や児童会が中心となって取り組み、あいさつの大切さを理解する。 ・異学年交流として、交歓給食や勉強会などを行う。	・あいさつ運動への取り組み。あいさつの大切さを継続して理解する。 ・異学年交流や、学校全体で交流できる取り組みを行い、いじめをなくすことへつなげていく。	・あいさつ運動を継続するだけでなく、あいさつを習慣づける新しい取り組みを行う。・学校全体で取り組むことのできる取り組みを増やし、高学年は低学年との触れ合いの中で学校の代表としての自覚を持たせる。
健康・体力の増進	運動好きの子を増やす。 運動嫌いの子を減らし、	・体育授業の充実・校内研修会の実施(水泳、茨木っ子運動等)・「子どもは風の子プロジェクト」の実施・・・マラソン、縄跳び・茨木っ子運動の実施の徹底・校内体力向上プロジェクトの実施・備品等の把握及び必要な備品の調査などの環境整備・耳原小学校体育年間計画の周知・短時間運動プログラムの研修	・体育授業の充実・校内研修会の実施(水泳、茨木っ子運動等)・「子どもは風の子プロジェクト」の実施・・・マラソン、縄跳び・校内体力向上プロジェクトの実施・備品等の把握及び必要な備品の調査などの環境整備・短時間運動プログラムの実施・全職員における体育指導の共通理解の促進(伝達講習)	・体育授業の充実・校内研修会の実施(水泳、茨木っ子運動、ラジオ体操等)・「子どもは風の子プロジェクト」の実施・・・マラソン、縄跳び・耳原小学校体育年間計画に沿った体育指導による体力の向上・短時間運動プログラムの実施による体力の向上・グローイングアッププランの振り返り
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A	国語B
(領域ごと)	(領域ごと)
① 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった。	① 話すこと・聞くこと やや課題が残る結果であった。
② 書くこと 概ね良好な結果であった。	② 書くこと 課題が残る結果であった。
③ 読むこと やや課題が残る結果であった。	③ 読むこと 課題が残る結果であった。
④ 言語事項 課題が残る結果であった。	④ 言語事項 なし
(問題形式)	(問題形式)
① 選択式 やや課題が残る結果であった。	① 選択式 やや課題が残る結果であった。
② 短答式 課題が残る結果であった。	② 短答式 なし
③ 記述式 なし	③ 記述式 課題が残る結果であった。
(無解答率)	(無解答率)
概ね良好な結果であった。	概ね良好な結果であった。
(その他)	(その他)

分析

国語Aの「書くこと」の領域では、正答率が全国平均に近く、概ね良好な結果であった。作文の基本的な書き方の指導により児童に表現する力が積み重なっていきいているといえる。引き続き、語彙力を増やし、端的に表現できる力も伸ばしていきたい。しかし、「短答式」では、問題文から間違っている箇所はわかるものの、それを正しい文に書きかえられず無解答が目立つ結果となった。さらに、ここに時間を大きくさいってしまった児童が多いため、それ以降の問題を十分に解く時間が確保されず、間違いや無解答率が上がっていき、全体的に全国平均を下回ったといえる。

国語Bは全体的に課題が残る結果であった。型にはめて書くことの手はついてきているが、自分の考えを書くことを苦手としている児童が多いので、今後はその指導が必要であると考えられる。

「読むこと」については、どの情報からどう読み解くのが問題を解くポイントになるため、学習の中でも取り入れながら力をつけていく。

「言語事項」については、漢字領域では音読みの読み書きは比較的できるが、送り仮名のある訓読み漢字の読み書きは苦手とする児童が昨年同様にいることが分かり、本校の課題として残った。漢字を単に覚えるのではなく、漢字を活用できるような指導をしていきたい。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
やや課題が残る結果であった。
- ② 量と測定
やや課題が残る結果であった。
- ③ 図形
やや課題が残る結果であった。
- ④ 数量関係
やや課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
やや課題が残る結果であった。
- ② 短答式
やや課題が残る結果であった。
- ② 記述式
なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
やや課題が残る結果であった。
- ② 量と測定
やや課題が残る結果であった。
- ③ 図形
課題が残る結果であった。
- ④ 数量関係
やや課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
やや課題が残る結果であった。
- ② 短答式
やや課題が残る結果であった。
- ③ 記述式
やや課題が残る結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

分析

A問題において、「角度」「円の直径」「面積」と解答が選択式は比較的解きやすかったようで、正答率からみても理解もできているといえる。しかし、国語同様、自分の考えを問われると一気に正答率が下がり、無解答率が目立つ結果となった。まずは、問題をどう読み解くか、問題の意味をどう理解したのか、学習の中でも発問を変えながら、様々な問題と出会わせて児童に力をつけていきたい。

B問題においては、答えを導くまでの考えを指定した言葉を使って書き表すことができず、無解答率が全国平均を大きく上回る結果となった。これは、学習の中で、基礎基本を活用していく力をつけ、粘り強く仲間とともに課題解決ができる根気強さも同時に育てていき、授業の中で活用する力を養う環境を作りたい。

○●理科●○

(領域ごと)	
①物質	やや課題が残る結果であった。
②エネルギー	概ね良好な結果であった。
③生命	概ね良好な結果であった。
④地球	概ね良好な結果であった。

(問題形式)	
①選択式	概ね良好な結果であった。
②短答式	やや課題が残る結果であった。
③記述式	課題が残る結果であった。

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

分析

大阪府とは正答率が近いものの、全国と比べると下回った。国語や算数に比べて無解答率は少なかった
ので、比較的解きやすかったといえる。

本校の児童は、実験の手順や用語をよく覚えており、なおかつそれが選択問題だったため、全国の正答
率を上回る結果がでた。知識はしっかり積み重なっているといえる。これは、日々の学習の中で言葉をよ
く覚え、使うということができているといえるだろう。

反対に、国語や算数と同様に記述式、間違えを見つけてそれを正しく書きなおす問題になってくると、
正答率も一気に下がり、無解答率も上がってくる。せっかく覚えた言葉や実験の手順が自分の考えの中に
いかしきれていない現状があるといえるので、学習の中でそのような問題にどんどん出あわせていき
たい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平成21年を境に本校では、徐々に下降気味の結果が続いている。今年度、国語Aと算数A、理科においても全国平均を下回った。

特にB問題においては、全国平均を大きく下回る結果であった。基礎力向上に取り組みながらも、応用問題にも対応できる力を育成していく施策が必要である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

昨年度に比べ正答率40%以下の学力低位層が大幅に増加した。反対に正答率80%の学力高位層が減少し、課題が見えた結果となった。学力の二極化が解消しきれていない。エンパワー層も昨年より増加している。まずは、中間のを底上げをし、そこから低位層の底上げにつなげていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

平成30年度 基礎学力向上の3本の柱

- ①国語の基礎力の向上（読み・書き）
- ②算数の基礎力の向上（計算）
- ③学習能力（聴く力・学ぶ力）の向上

本年度の重点目標

- ①音読の力の向上（読み書き基礎力向上）

※教科書を正確に読む力をつける。

音読の重視 → 100点読みへの挑戦 → 暗唱の成功体験
漢字そっくりさん指導→字形指導の徹底

のステップで自信アップにつなげ「できる」を実感。

- ②重点指導事項の習得（計算の基礎力の向上）

※各学年の重点指導事項を徹底して指導し、習得させる。

計算カードの長期的活用・フラッシュカードでの暗算・繰り下がりのひき算の徹底
わり算C型の練習徹底で次年度へつなぐ。

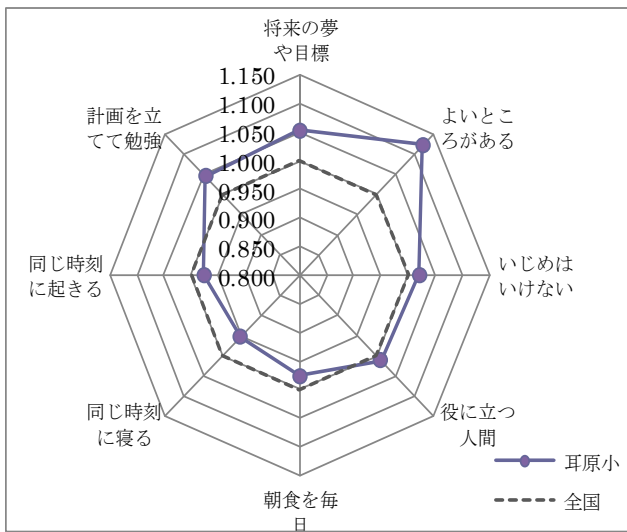
- ③学ぶ力の向上（学習能力の向上）

※家庭学習の仕方の指導やテスト勉強の仕方、反応速度を高めていく。

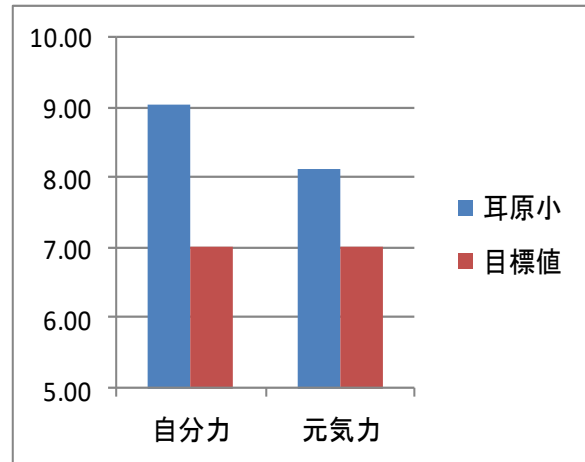
- ◎学力アップ大作戦の2年目として、今年度は、以上の3つを重点目標とする。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

ゆめ力

・「夢や目標を持っていますか。」の項目の数値が高い。5年生でのキャリア教育が影響していると思われる。

自分力

・3項目とも数値が上回っている。とりわけ「よいところがある。」の項目が全国平均よりも大きく上回っている。日ごろから友達同士認め合う取り組みを行ったり、教師のプラスの声掛けが影響していると思われる。

元気力

・「朝食」「起床時間」「就寝時間」3項目とも数値が下回っている。子ども・家庭ともに基本的な生活習慣の定着を図っていく必要がある。

つながり力

・項目なし

学び力

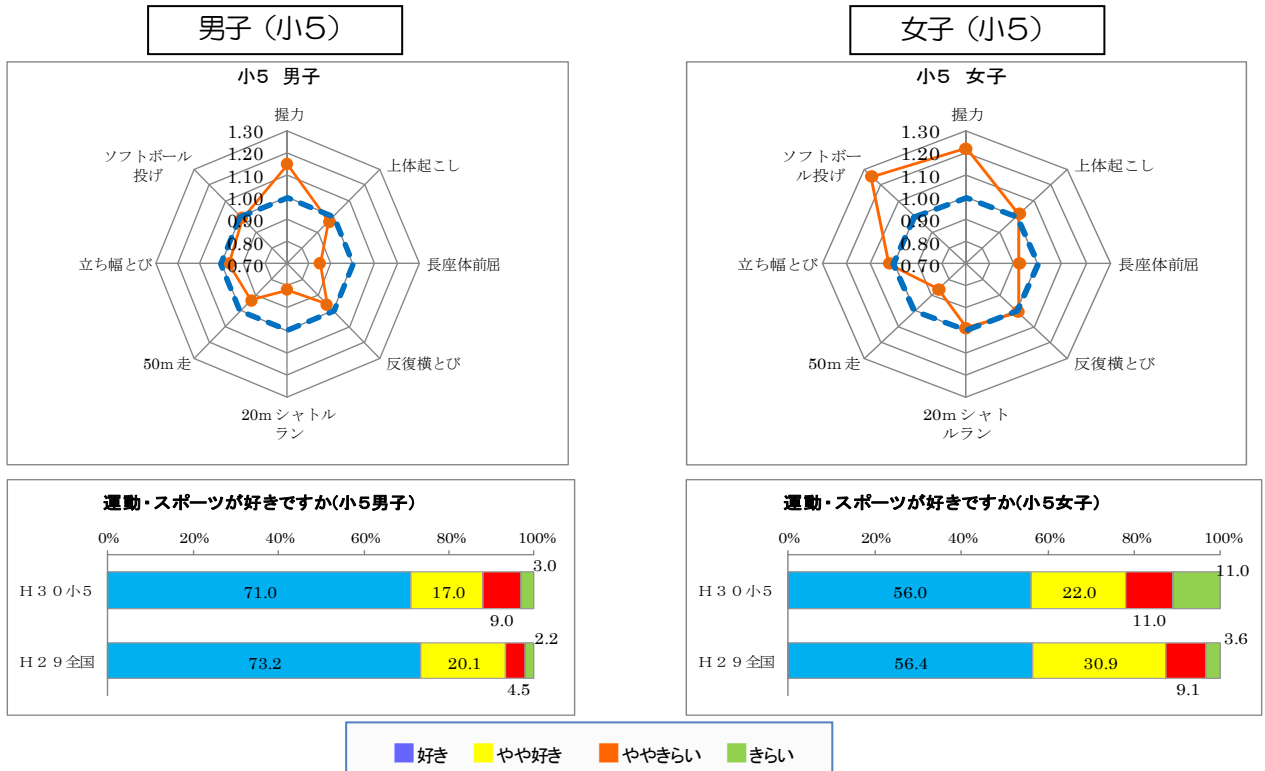
・「計画を立てて勉強」の項目の数値が上回っている。「授業の予習復習をしている」の項目も「している」と回答した児童が41.7% (全国27.7%) と高い数値を出している。自主学習の取り組みも含め、学習に意欲をもって取り組んでいる児童が多いと考えられる。

取組み

- ・ 自尊感情の醸成 (文化発表会・校内作品展等・きょうだい学年交流)
- ・ 基本的な生活習慣の向上 (生活アップ推進週間・登校支援)
- ・ 学習規律 (学習ルールの徹底・耳原スタンダード)
- ・ 児童会活動 (募金活動・応援団・委員会活動) 責任と行動力の育成
- ・ 集団づくりの取り組み
- ・ あいさつ運動 (あいさつ推進キャンペーン)
- ・ キャリア教育の充実
- ・ 学校行事 (運動会・文化発表会など)
- ・ 清掃活動 (縦割り掃除)

(2) 全国体力・運動能力、生活調査

○●体力●○



分析

<5年生>

- ・男子がほぼ全ての項目で全国平均を大きく下回る結果となった。昨年度と比べても握力・立ち幅跳び・50m走以外は下回っている。
- ・男女ともに握力が全国平均を大きく上回っている。
- ・男女ともに50m走は大きく全国平均を下回っている。
- ・女子は半分以上の項目で全国平均と同等か上回っており概ね良好な結果となっている。一方で昨年度と比べると全体的に下回る結果となった。
- ・運動が好きという項目が男女ともに全国平均を下回っており、特に女子の数値が低い。

<学校>

- ・4年生の結果が男女ともに、全国平均をほぼ全ての項目で下回る結果となった。
- ・5、6年の握力は全国平均を上回っており、良好な結果となっている。
- ・学校全体（特に女子）としてはソフトボール投げでは、全国平均に近い数値か上回っており概ね良好な結果となった。
 - ドッジボールをしている児童が多い。
 - 柔軟や瞬発力の運動に大きく課題が残る結果となった。短時間運動プログラムを実施し、柔軟性、瞬発力の向上を図る。
 - ソフトボール投げについては昨年度に引き続き概ね良好な結果となった。体育委員会によるドッジボールコートでの線引きなどにより、児童に投げる運動を日常から促進していきたい。
 - 全体的に昨年度を下回る結果となったことから、短時間運動プログラムの実施により改善を図っていく。

取組み

- ・体育授業の充実
- ・校内研修の実施（体育）
- ・「子どもは風の子プロジェクト」の実施・・・休み時間に外で遊ぶ児童を増やす。
- ・短時間運動プログラム
- ・茨木っ子運動の継続（柔軟性 瞬発力を高める運動）
- ・泳力の向上
- ・水泳指導力の向上
(校内研修)